

## 美術教員輩出

### カリブ海 ドミニカ国

#### 美術教育支援

**概要：**公教育に美術教育が欠けていることを憂慮した元教育大臣のスケリット首相から、美術教育への協力を依頼されたWFWP派遣員は、2002年11月より、ドミニカ唯一の国立大学「ドミニカ・ステート・カレッジ（DSC）」教育学部で1年生の必須科目である美術の授業（週2時間、1学期内7～8回を年3学期）を担当している。また、現職の教師たち自身が学校で美術教育を受けていないため、保育園や公立小学校の教師たちにもカトリックが運営するソーシャルセンターで美術教育を指導し、デッサン、水彩、彫塑、デザインなどの基本的な実技と美術教育の目的を教えている。

青少年の情操教育とモラル教育推進のため、青少年更正施設や小学校からも依頼を受け、美術の授業を行なっている。

派遣員が行うまでドミニカ国の公立の小中学校では美術の授業をしていなかったため、美術を専門的に学んでいた派遣員が中心となって教科書を作成した。生徒が使う画材もドミニカ国には充分でない為、日本からの寄付品を生徒に配布している。

#### 進展状況

##### 【2017】

- ドミニカ・ステート・カレッジにて、毎週木曜日（滞在中4回）の午後2時から5時まで、デッサン、水彩画、クラフトなどの小学生の為の美術教育、デザイン、ポスター画を指導した。16人の学生が受講。
- 5月18日、コンベント小学校を訪問。学校に画材を寄贈し、日本のNGOが主催した「世界の子供の美術展」に入賞した児童に賞品を授与した。
- 5月31日、デリース小学校にてアートクラスを実施。20人の児童が参加。学校に画材を寄贈し、「世界の子供の美術展」に入選した児童に賞品を授与した。
- 5月25日、青少年厚生施設「オペレーション・ユース・クエイク（OYQ）」にてアートクラスを実施。7人参加。
- 6月2日、ステート・カレッジの4人の生徒に補習授業を行った。
- 6月4日、教育大臣のご自宅の昼食に招待された。食事の後、教育大臣御夫妻が近所の子供達を集めてくださり、簡単な折り紙とクラフト教室を開催した。
- 9月にハリケーン・マリアがドミニカ国全土を襲い、被害も甚大だったため、9月以降の現地での活動を中止せざるを得なかった。
- 12月、WFWP日本で義援金を集め、物資を購入して支援しようとしていたが、首都ロゾーの店舗はすべて閉店しており、物資を調達することができなかった。今まで支援してきたドミニカ・ステート・カレッジ、ソーシャルセンター、青少年更生施設（OYQ）や教育大臣を訪問して必要な物資のリストを入手した。

##### 【2018】

- 2月、WFWP日本で集めた義援金で支援物資を購入し、OYQ、ドミニカ・ステート・カレッジ、カトリック教会



ドミニカ・ステート・カレッジでの指導



ドミニカ・ステート・カレッジに支援物資を寄贈



小学校での授業

- が運営する保育園に寄贈した。
- 5月、ドミニカ・ステート・カレッジでの授業を再開した。滞在中180分の授業を3回、120分の補習を1回行った。16人の学生と教員が受講した。
- 5月22日、マリゴット小学校で小学生を対象にクラフトの授業。最後に、折り紙の指導書、折り紙、クレヨン等の画材を学校に寄贈した。
- 5月24日、教育大臣から依頼を受けたドミニカ東海岸の小学校3校を訪問し、ホワイトボード、ノート、鉛筆、クレヨン、ドローイングパッド、絵本、物語の本等を寄贈した。
- 10月16～18日、小学校3校にて、62人の児童を対象に折り紙を使った工作の授業と画材の寄贈を実施。